

令和5年度 第2回 指宿市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

1. 開催概要

(1) 日 時：令和5年10月24日(火) 14:00～16:00

(2) 場 所：指宿老人福祉センター 集会室

(3) 出席者：21名

鹿児島大学 名誉教授
鹿児島交通株式会社 常務取締役
山川タクシー 支配人
九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社 副支社長
種子屋久高速船株式会社 所長代理
株式会社なんきゅうドック 代表取締役
公益社団法人鹿児島県バス協会 専務理事
一般社団法人鹿児島県タクシー協会 指宿支部長
指宿市自治公民館連絡協議会 会長
指宿市自治公民館連絡協議会 副会長
国土交通省九州運輸局鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官(企画調整担当)
国土交通省九州運輸局鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査担当)
指宿警察署 交通課長
鹿児島県南薩地域振興局建設部 河川港湾課長
指宿市 総務部長
指宿市 産業振興部長
指宿市 健康福祉部長
指宿市 建設部長
指宿市 山川支所長
指宿市 開聞支所長
国土交通省九州運輸局 交通企画課長 (オブザーバー)

2. 議事

(1) 指宿市地域公共交通計画策定スケジュールについて

(2) 指宿市地域公共交通の現状のまとめ

(3) 各種調査結果の報告

- ・Ⅰ. 市民ニーズ調査の結果
- ・Ⅱ. 交通事業者ヒアリング調査の結果
- ・Ⅲ. 観光団体ヒアリング調査の結果

(4) 指宿市地域公共交通の今後の方向性について

- ・Ⅰ. 指宿市地域公共交通の課題の整理
- ・Ⅱ. 指宿市地域公共交通計画の骨子(案)
- ・Ⅲ. 指宿市地域公共交通の基本骨格(案)



3. 議事経過

(1) 指宿市地域公共交通計画策定スケジュールについて

■質疑なし

(2) 指宿市地域公共交通の現状のまとめ

■会 長： 利用者数の報告について、路線バスは3割減少、あいタクは7割増加とあるが、公共交通の利用者数の総数はどういう傾向にあるか。

⇒事務局： 参考資料1のP47から各公共交通の利用者数を記載している。コロナの影響もあり全体的に減少傾向にあることがうかがえる。

(3) 各種調査結果の報告

■委 員： 観光客アンケートについて、外国人からの回答は得られたのか。

⇒事務局： 外国人にもお声掛けさせていただいているが、日本語が通じない方について回答は得られていない。

■委 員： 交通事業者のヒアリング結果について、種子屋久高速船の現状のリソースについてのコメントにある「若い運転手も入社している」は船員という認識で合っているか。

⇒事務局： その通りである。

■委 員： 現状を見た限りでは、免許を持たない人からのニーズが高い反面、免許保有者は公共交通を使わない傾向にある。今後、年間でどの程度免許返納者が発生するか等、追加で調査してみてもどうか。

⇒事務局： 今回行った調査の中で多くのご意見を頂いている。その中で、参考資料2 P22において、免許の保有状況と年代のクロス集計を行っている。また、P36で自由回答をまとめている。その中で、将来は公共交通を利用すると回答した人が一定数見られた。今回実施したアンケート調査の内容で、ある程度の分析は可能であると考えている。

■委 員： 今後も免許返納者は増えると考えられる。自家用車の依存度が高い方が、将来交通弱者になったときに、交通事業者（担い手）がどの程度いるのかが課題である。

■会 長： 5年後10年後、免許返納者はさらに増えてくると予想される。そういった人をカバーできるような公共交通体系の構築は担い手不足により難しい現状である。あんしんネットワークなどの構築についても検討を行い、可能であれば計画にも盛り込んでほしい。

■会 長： 年齢別、地区ごとの分析は行っているのか。

⇒事務局： 参考資料2 P18からクロス集計で示している。また、P25からスマートフォンで利用している機能と年代のクロス集計を行っている。75歳以上に注目すると、電話・メール・LINEについては一定数利用が見られるが、キャッシュレス決済を利用している人は10%にも満たず、病院の予約はスマートフォンで行っている方がいることがわかる。チケットの予約や購入は行っていないといっ

た結果が出ている。65歳から74歳になると傾向が変化している。

- 会 長： デジタル技術を交通システムに活用できるのか。年齢ごとの特徴等分析して計画に反映できるか検討してほしい。
- オブザーバー： クロス集計の部分について、「公共交通の利用状況と地域」、「公共交通の利用状況と公共交通の必要性」のクロス集計を行うと、より現状や課題が明確になると思う。
- 会 長： 細かい属性でのクロス集計を行うことで、指宿市の公共交通に対する姿がより見えてくる。
- 会 長： 調査結果より、家族の送迎を利用される方も目立つが、世帯人員など家族構成の特徴はわかるか。先のことにはなるが、ライドシェア導入も今後検討の一つとして考えられるかもしれない。その際には、地域の結束力が重要となる。地域社会づくりの中では地域の結束力が課題解決につながるということがわかっている。データとしてあるのであれば、活用してほしい。

(4) 指宿市地域公共交通の今後の方向性について

- 委 員： P5に記載がある、事業者ごとの存続・極力存続・存廃議論は、どのような基準で定めたのか。
⇒事務局： 事業者ヒアリングで伺った話や、10月4日に実施した鹿児島交通とタクシー協会との意見交換会での協議内容を基に検討した。
- 委 員： 存続と存廃議論の区別はどのように付けているのか。
⇒事務局： ヒアリング結果等から現状大きな問題はなく、今後も運行を継続できると判断させていただいたところは、存続と記載している。反対に、直近の課題があり存続が難しいと判断したところは、存廃議論と記載している。
- 委 員： どのように判断された根拠がわからない。具体的な判断基準は何か。
⇒事務局： 判断基準としては、リソースの状況が一番大きい。今後1～5年程度先を見たときに、車両がない、人手がないといったお話をいただいた事業者さんについては、存続が難しいと判断させていただいた。
- 委 員： そもそも、存廃議論などは計画の中で謳われるものになるのか。本協議会は、現状のリソースで市内の交通体系をどのように構築していくのかを議論する場であり、運行の継続可否等はここでする話ではないと考える。
⇒事務局： ご指摘のとおりである。市内で運行するさまざまな移動手段を組み合わせ、今後の市民・観光の足をどのように確保するかを検討する場だと考えている。本協議会は存廃について議論する場ではないが、市内の公共交通を考えていく上で、夢物語にならないためにも皆様の状況を整理する必要があると考え、入れさせていただいた表現である。計画の中には存廃について明記はしない。
- 委 員： 骨格部分でこのような表現があると、計画に盛り込まれるように感じる。再考すること。
⇒事務局： 承知した。本資料をお示しした主旨は、資料中ピンクで示した、計画の方向性案の議論のためである。大きな計画の方向性として、何が生かせるのかとい

った方向性の議論を行いたい。存続等の表現については今後控える。

- 会 長： 各リソースの課題は明確にするべきであると思う。その上で、課題の解決にどこまで踏みこむのかが重要である。表現については慎重にせざるを得ないと考える。
- 委 員： P3に立地適正化計画並びに海岸地域のまちづくり基本構想を盛り込んでいただき感謝する。立地適正化計画は公共交通体系との連携が非常に重要である。立地適正化計画は令和6年10月の策定予定で進んでいる。本計画については今後とも商工水産課と情報共有を行っていく。
- 会 長： 立地適正化計画は各地区の在り方と指宿市全体の在り方がある。それをどのように地域公共交通計画に落とし込むか。地区ごとの課題についての対策は今回の資料で反映されていないと思うので、今後検討願いたい。
- 委 員： 骨子の目標2の部分に係ることで、先ほど観光客調査では外国人の方のアンケートが取れていないとのことで、指宿市の観光課やDMO（観光地域づくり法人）と情報共有しながら今後の施策などを立てて頂きたい。
- 委 員： 本市は1日を通して朝に人の移動が集中する傾向にある。住民は病院への移動が主であり、観光客は、たまたま箱温泉への移動などがある。高齢者であれば、公共交通を利用する時間をある程度を自由に換えられると思う。利用時間を少しでも分散できると、予約の混雑対応にもなり良いと考える。例えば、余裕のある時間に利用すれば特典をつけるなど、医療施設・商業施設など他分野とも協力した施策などを計画の中で検討頂きたい。
- 会 長： 課題1がメインになる。指宿市に住む人の生活を支えていくこと。この点ができていないと成り立たない。まずは課題1について整理を行っていききたい。PDCAをしっかりと行っていくことも重要であると考えている。
- オブザーバー： アンケート結果や交通利用実態、事業者のコメント等ふまえて、計画を策定する事が重要である。かつ、一事業者では成しえないような、事業者間の連携を通じた利便性向上や最適な公共交通網の再編などを施策として打ち込んでいくことが地域公共交通計画を作成する目的の一つである。また、別府委員からも話があった、他分野との連携等の「共創」も意識しながら計画を作成頂きたい。
- 会 長： 次回は12月に素案の検討を終了させる予定である。今日意見を述べつくすことはできないと思うため、会議が終わってからもご意見を寄せて頂ければ幸いである。

《指宿市地域公共交通の今後の方向性について 概ね了承》

(5) その他

- 委 員： バスに限らずではあるが、鹿児島交通でも人手不足が大きな問題として挙げられている。人材不足や経営状況の改善を含めて、10月1日に県内全域でダイヤ改正を行った。改正を行い、多少改善されたが、現状でも50名ほど不足する

状況が続いている。高齢化と運転手不足が大きな問題であり、平均年齢は60歳ほどである。地域住民が免許返納をする頃に運転手の免許返納も重なってしまう可能性が危惧される。イッシーバスの廃止や他の交通モードへの転換も考えなければいけない状況になっている。指宿市は岩崎グループの重要拠点でもあるので、今後も精一杯協力していきたい。

- 委員：今年9月に鹿児島中央駅から指宿駅までビザタッチ機能を導入した。従来からICカード導入の話を受けていたが、導入・維持費が高く実現できていなかったが、今回はクレジット会社と協働し、導入したところである。鹿児島市内では既に市営バスや路面電車に導入されている。指宿市においては1日70人ほどの利用を受けている。福岡県の香椎でも同様のシステムを導入していたが鹿児島の方が導入当初からの利用率は高い。機会があればご利用頂きたい。